

2-2. 普天間飛行場の跡地内の地権者への取組み

取組み方針①：組織強化を目指して既存会員の掘り起しを適宜行うとともに、若い世代の人材育成を行う。

取組み方針②：今年度のテーマについて、これまでの検討内容と関連付けたテーマを用いることで既存会員の参加のキッカケを促す。

取組み方針③：過年度で検討を進めてきたテーマのブラッシュアップと、既存・新規会員の掘り起こしを行う。

取組み方針④：地権者に対し、全体計画の中間取りまとめ（第2回）の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。

（1）若手の会の定例会活動支援

1）取組み概要

今年度のテーマを「賑わいを創出する空間づくり」と決定し検討を行った。

これまでの検討を踏まえ、公共交通を活用し跡地へ足を運びたくなる機能や、公共空間を活用した賑やかしのあり方等を議論した。また、今年度は机上での議論の他に、実際に公共空間を活用して賑わいの創出が図れている場所の県内現地視察などフィールドワークを通して検討テーマの深堀を行い、若手の会の考えとして取りまとめた。

また、先進地視察会やフィールドワークの事前勉強や地権者意見交換会における若手の会報告テーマ等を議論し取組みにつなげた。

2）取組みスケジュール

No	開催日	議題
1	5月13日	・ 普天間飛行場の跡地における歴史・文化について ※第1回目は宜野湾市で実施運営を行った。
2	6月13日	・ 今年度の進め方と今年度のテーマについて ・ にぎわいを創出する空間づくり ・ はごろも祭りブース出展
3	7月11日	・ はごろも祭りブース出展 ・ 先進地視察先（案）について ・ にぎわいを創出する空間づくり ・ 地権者意見交換会

No	開催日	議題
4	8月8日	・地権者意見交換会 ・はごろも祭りブース出展 ・にぎわいを創出する空間づくり ・フィールドワーク ・先進地視察会
5	9月12日	・地権者意見交換会 ・はごろも祭りブース出展 ・先進地視察会 ・にぎわいを創出する空間づくり ・フィールドワーク
6	10月10日	・地権者意見交換会 ・先進地視察会 ・フィールドワーク
7	11月14日	・先進地視察会の振り返り ・にぎわいを創出する空間づくり
8	12月12日	・にぎわいを創出する空間づくり
9	1月16日	・にぎわいを創出する空間づくり ・次年度の取組み
10	2月13日	・次年度の取組み ・フィールドワーク
11	3月12日	・今年度の振り返り ・次年度の取組み ・フィールドワーク



写真：定例会の様子①



写真：定例会の様子②

3) 賑わいを創出する空間づくりに対する若手の会の考え

にぎわいの方向性	にぎわいの定義とは？	目的地までの移動手段	利用しやすくする為には	足を運びたくなる機能	賑わいの空間とは																								
・持続性のある日常使いと、観光客や来訪者にもリピーターになってもらえる ・住民と観光客では、にぎわいの方向性が違うため、住宅エリアと商業エリアはすみ分ける。 例えば、北谷町美浜は観光客や買い物客に特化した商業地で集客力があるが、住民に対しては、スポーツやスケボーや自転車のイベントを開催し、にぎわいを創出   ・大規模公園、みどりのまちや学術研究都市等を目指しながら、各種イベントを開催しにぎわいが創出 	「にぎわい」とは「にぎわい」の定義とは？ 「にぎわい」は、人々が集まることで生まれる空間であり、その空間が人々を惹きつけるように設計されている。多様な時間の過ごし方があることが、にぎわいを創出する鍵となる。	■公共交通 メリット コストが安い/環境に優しい/渋滞の緩和/健康の増進/安全/交通事故のリスク低減できる/お酒を飲んでも帰ることができる/維持費がかからない デメリット 速達性・定時性がない/便数が少ない/バス停が遠い/待ち時間の環境が辛い/気象条件に運行が左右される/路線がわかりづらい	・移動しやすい状況を作り出す ・交通ネットワークの充実 ・バスマップを作る ・バスナビ等ウェブの活用 ・長距離利用者を割引 ・駅・バス停を快適にする	・乗合タクシー ・コミュニティバス(例：護佐丸バス) ・路面電車 	<table><tr><th>活用案</th><th>目的</th><th>ターゲット</th></tr><tr><td>みどりの緑毯、ぶらんこ</td><td>憩い・リフレッシュ(子どもの遊び場)</td><td>家族</td></tr><tr><td>ベンチテーブル</td><td>仕事(会議・打合せ)</td><td>ビジネスマン</td></tr><tr><td>水やチョークで絵を書くパフォーマンスができる空間</td><td>憩い・リフレッシュ学習</td><td></td></tr><tr><td>キッチンカーの配置(設備の用意)</td><td>飲食・交流</td><td></td></tr><tr><td>歩きたくなくなるおしゃべりな空間の形成</td><td>アミューズメント</td><td>観光客や住民</td></tr><tr><td>歩道を広く歩きやすくし、緑の緑毯、健康遊具(設置式足つぼなど)を配置</td><td>健康</td><td></td></tr><tr><td>自分が街を歩いて興味を持ち足を運びたくなる空間</td><td>教育 理解・触れ合い</td><td>観光客</td></tr></table> 	活用案	目的	ターゲット	みどりの緑毯、ぶらんこ	憩い・リフレッシュ(子どもの遊び場)	家族	ベンチテーブル	仕事(会議・打合せ)	ビジネスマン	水やチョークで絵を書くパフォーマンスができる空間	憩い・リフレッシュ学習		キッチンカーの配置(設備の用意)	飲食・交流		歩きたくなくなるおしゃべりな空間の形成	アミューズメント	観光客や住民	歩道を広く歩きやすくし、緑の緑毯、健康遊具(設置式足つぼなど)を配置	健康		自分が街を歩いて興味を持ち足を運びたくなる空間	教育 理解・触れ合い	観光客
		活用案	目的	ターゲット																									
みどりの緑毯、ぶらんこ	憩い・リフレッシュ(子どもの遊び場)	家族																											
ベンチテーブル	仕事(会議・打合せ)	ビジネスマン																											
水やチョークで絵を書くパフォーマンスができる空間	憩い・リフレッシュ学習																												
キッチンカーの配置(設備の用意)	飲食・交流																												
歩きたくなくなるおしゃべりな空間の形成	アミューズメント	観光客や住民																											
歩道を広く歩きやすくし、緑の緑毯、健康遊具(設置式足つぼなど)を配置	健康																												
自分が街を歩いて興味を持ち足を運びたくなる空間	教育 理解・触れ合い	観光客																											
		■車 メリット 自宅から目的地まで直接向かえる/荷物を運べる/自分の好きな時間に出発できる/自由に寄り道ができる デメリット 交通渋滞や騒音、環境問題など/駐車料金・維持費がかかる/公共交通と違って居眠りは許されない/飲酒ができない	・集約した駐車場の確保 ・計画的な道路整備 ・自動車交通需要の調整 ・ZEVの普及促進 	・P&R ・駐車スペース ・シェアリング ・シャトルバス ・グリーンスローモビリティ 																									
		■徒歩・自転車 メリット 健康増進/コストが安い/環境にやさしい/渋滞による影響も低い/時間的に余裕のある通勤が可能/筋力低下防止や骨を丈夫にする/ストレス解消 デメリット 坂道が多いと疲れる/荷物の持ち運びが大変/暑さや寒さで体力を消耗する/季節や天候に左右される/車を運転しない者が徒歩ですごせるまちになっていない	・平坦な道路整備 ・木陰のある幅広遊歩道の整備 ・水飲み場等の休憩スポットの整備 ・ミニ洞窟 ・交通弱者が歩きやすいまちづくり 	・電動キックボード ・電動アシスト自転車  ・シェアサイクル ・将来のモビリティ(徒歩に近い乗り物の技術)  写真：三菱総研	<table><tr><th>活用案</th><th>目的</th><th>ターゲット</th></tr><tr><td>常設イベント</td><td>アミューズメント、交流</td><td>観光客</td></tr><tr><td>高層ビルの屋上(事例：パレット久茂地の上層階の養蜂事業)</td><td>憩い・リフレッシュ・シユ・アミューズメント</td><td>個人・家族・観光客・ビジネスマン</td></tr><tr><td>人を呼べる、集められるシンボル(大規模公園)空間</td><td>憩い・リフレッシュ</td><td>家族</td></tr><tr><td>宿泊</td><td>憩い・リフレッシュ</td><td></td></tr><tr><td>自然や地形</td><td>学び、期待、感動</td><td>観光客</td></tr></table>  自然環境の維持に配慮しながら空間活用	活用案	目的	ターゲット	常設イベント	アミューズメント、交流	観光客	高層ビルの屋上(事例：パレット久茂地の上層階の養蜂事業)	憩い・リフレッシュ・シユ・アミューズメント	個人・家族・観光客・ビジネスマン	人を呼べる、集められるシンボル(大規模公園)空間	憩い・リフレッシュ	家族	宿泊	憩い・リフレッシュ		自然や地形	学び、期待、感動	観光客						
活用案	目的	ターゲット																											
常設イベント	アミューズメント、交流	観光客																											
高層ビルの屋上(事例：パレット久茂地の上層階の養蜂事業)	憩い・リフレッシュ・シユ・アミューズメント	個人・家族・観光客・ビジネスマン																											
人を呼べる、集められるシンボル(大規模公園)空間	憩い・リフレッシュ	家族																											
宿泊	憩い・リフレッシュ																												
自然や地形	学び、期待、感動	観光客																											

視察を通して「賑わいを創出する空間づくり」に活かせる意見

- まちなかを歩かせる取組み→歩いてほしい通りには駐車場を設けず、あえて駐車場を少し離れたところにつくる。目的地までは魅力的な店舗があることで、歩きたくなくなるような仕掛けづくり。立ち寄りたくなる拠点となる場所がいくつかは必要。様々な活動などに自由につかえる道路空間を創出。
- 人が集まる場づくり→地域の方々と日ごろからコミュニケーションを図る。地域住民主体の賑わいイベントなどに積極的に協力する。

フィールドワークを通して「賑わいを創出する空間づくり」に活かせる意見

- ただ人をあつめるのではなく、安全面や自然環境保全を確保しながら、ありのままの空間にストーリー性を持たせることで興味関心を惹き立て、訪れたい空間づくりへつなげている。
- 賑わいを創出する空間づくりは、ソフトを支えるハード面(暑さ対策、風対策、環境、電源)を整えることも重要。

4) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●テーマの取りまとめについて

- ・若手の会として、にぎわいの方向性から「賑わいの定義づけ」を行い、テーマの共通認識を図り議論を進めた。賑わいの空間のあり方について、交通機能を関連付けて活用案を示すことができた。賑わいの空間のあり方については、公共空間を道路及びみどりに分類し、その空間において実際の過ごし方を意識した意見を取りまとめることができた。

●定例会参加者の傾向などについて

- ・次の世代の引き継ぎを見据えて、積極的かつ継続的に定例会に参加し始めた会員の姿が見受けられた。また、オンライン会議での開催のため参加が遠のいていた会員が、会場に足を運ぶことが徐々に増えてきており、対面での意見交換からコミュニケーションが取りやすくなった。

【今後の課題】

●今後の活動の活性化及び意向醸成に向けた取組みについて

- ・今後も引き続き、既存・新規を問わず会員の掘り起こしを行い、定例会の参加人数を増やすとともに次世代に繋いでいくための取組みについて、継続して検討する必要がある。
- ・これまでの検討内容も踏まえて進めることが多い状況から、初めて参加する方などは内容が把握できなくなることが考えられる。また、初めての方に参加を促す際に、定例会への参加はハードルが高い印象を持たれることも考えられる。そのことから、地権者の誰もが参加しやすい勉強会形式等、環境及び興味関心を促す内容を検討する必要がある。
- ・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

(2) まち歩きの企画・開催

1) 開催概要

これまで若手の会で検討を進めてきたテーマについて、ブラッシュアップを図ることを目的として、若手の会と普天間飛行場の地権者で県内にある「人が集まるにぎわいがある場」の県内視察会を企画・開催した。

○開催日程

現地視察会：令和5年11月26日（日）

○テーマ【賑わいを創出する空間のあり方】

沖縄県内にある「人が集まる賑わいがある場」を視察し、これからの公共空間のあり方や、訪れたくなる拠点形成について、より深い知識の習得を図る。

①視察先

月 日	視 察 先
11/26（日）	■ ガンガラーの谷（南城市） ■ 南城 city 飯フェス（南城市）

②視察スケジュール

日 時	内 容	備 考
11/26 （日）	8：45 宜野湾市役所 集合	
	9：00 宜野湾市役所 出発	
	9：10 ↓貸切バスにて移動（約50分）	
	10：00 ガンガラーの谷 到着	
	10：20 ガンガラーの谷 視察 開始	
	◆ガイドツアー（90分）	
	11：50 ◆座学（30分）	・屋外休憩所（東屋）
	12：20 ガンガラーの谷 終了	
	12：30 昼食会場まで移動（約15分）	
	↓貸切バスにて移動	
	12：45 昼食会場 到着	
	13：00 昼食 開始	
	13：50 昼食 終了	
	14：00 昼食会場 出発	
	↓貸切バスにて移動（約10分）	
	14：10 南城city飯フェス会場 到着	・南城市 公共駐車場
	◆イベント視察（30分）	
	14：40 南城city飯フェス会場 出発	
	↓貸切バスにて移動（約50分）	
	15：30 宜野湾市役所 到着	■車内にてアンケートと感想を記入
	15：40 解散	

③参加者名簿

NO	所 属	氏 名
1	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	大川 正彦
2		伊佐 善一
3		宮城 武
4		天久 健
5		伊佐 力
6		我如古 隆
7		宮城 真郷
8		大門 達也
9	地権者	又吉 信一
10		仲村 春雄
11		末吉 孝和
12		宮城 勝繁
13		新城 成哉
14		新城 美登子
15	宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課	荷川取 邦子
16		仲本 彩乃
17		石井 清志
18		崎山 嗣朗
19	昭和株式会社	池村 さつき

2) 視察内容

①視察先位置図



②案内チラシ

若手の会、普天間飛行場の地権者に対し、地権者意見交換会で案内を行った。

令和5年度 若手の会 県内フィールドワーク

若手の会メンバーと
県内にある「にぎわいがある場」にいきませんか？

令和5年度の若手の会では「にぎわいの創出」について検討を進めています。
若手の会と一緒に県内にある「にぎわいがある場」について考えてみませんか。
若手の会の活動に興味がある方！ご参加お待ちしております♪

参加無料



県内バスツアー

ガンガラーの谷



出典:ガンガラーの谷 HP



観光客や県民にも人気があるガンガラーの谷では、自然を保全し、鍾乳洞を観光資源として活用しています。

注) ガンガラーの谷では、森の中の歩道を1時間ほど歩きます。
ツアーコースは通常の歩行、階段の上り下りができれば参加可能なコースです。

南城city飯フェス



南城市役所の隣りにある公共駐車場を活用してイベントを開催。
公共駐車場は、災害時の避難場所などに活用することが可能となっています。

日時 2023年 11 月 26 日(日) 9:00~15:30

集合場所 宜野湾市役所 駐車場(8:45集合) 注)観光バスを利用します。

募集人数 10名 先着

申込期限 2023年11月17日(金)

申込方法 下記の電話番号または二次元コードからも可能です。

注) 雨天決行。しかし、天候等で内容の変更もあります。

注) 申込方法等の不明点は、電話にてお問合せください。



参加申込み二次元コード

主催

宜野湾市 まち未来課

事務局

昭和株式会社

担当:崎山・池村

住所:浦添市安波茶1-6-1 藤ビル3階

TEL:098-876-5107 FAX:098-876-5131

県内バスツアー案内チラシ

①ガンガラーの谷（南城市玉城）

ガンガラーの谷は、日本人のルーツともいわれる約2万年前の古代人「港川人」居住区の可能性が高く、2007年（平成19年）から毎年継続して発掘調査が行われている。

株式会社南都は「沖縄にしかない自然、歴史、文化とその価値」を伝えるため、自然を保全しながら歩道、階段、手すりなど最低限の整備を行い、沖縄復帰直前に玉泉洞（現おきなわワールド）とガンガラーの谷を観光地として公開した。

しかし、公開からわずか数年後に谷内を流れる河川へ上流から畜舎排水が流れ込み環境悪化からガンガラーの谷部分の公開は中止されることになった。

閉鎖中はこの場所に対する人々の意識がなくなり価値がないと思われるようになったが、河川環境回復を待ち続け 2008 年に再び公開することとなった。

特筆すべきは、再開にあたり通常の観光スポットと違い「ガイドと一緒に歩くガイドツアー専用」としたことである。この手法は舞台のように脚本に基づく進行と参加者の心をつかむ演出がされており、目に見えない世界をイメージするような、工夫あるガイドツアーは高い評価を得ている。

静かな谷の雰囲気が損なわれないよう、ガイドツアーは前後のツアーと時間差を設け、他のツアーと遭遇しないよう順路を一方通行にすることで、谷を全て貸切りにしているような静かな雰囲気のまま歩くことができる。



15

【フィールドワークのようす】

(ア) ケイブカフェ

ツアー客の待合場所やコンサートも開催することができる鍾乳洞を活用したカフェ。9000 年前の土器や2万 3000 年前の釣り針が発見された場所でもあり現在も発掘調査が行われている。



ツアー参加者のみ利用することができるカフェ

(イ) イナグ洞

洞窟の奥深く入ったところに胸とお尻のような鍾乳石があることから、女性の神様が宿っていると言われており、良縁や安産のご利益があると言い伝えられている。



イナグ洞の入口でツアーガイドから説明を聞いているようす

(ウ) イキガ洞

洞窟内は小川が流れており、暗いためランタンを持って中へ進む。この小川は10 数年に一度、集中豪雨時に川が天井まで増水することがある。

奥に進むと男性を象徴するとされる鍾乳石があり、子宝や子孫繁栄に恵まれると言い伝えられている。



洞窟内を流れる小川



子宝に恵まれると言われている鍾乳石は触ることもできる

(エ) 大主ガジュマル

「森の賢者」と呼ばれる推定樹齢 150 年の大きなガジュマルは、ガンガラーの谷で一番の人気スポット。

崖の上に生えていたガジュマルが大きくなり、崖の上から下に根が垂れている。樹高は約 20m もあり圧倒的な存在感がある。

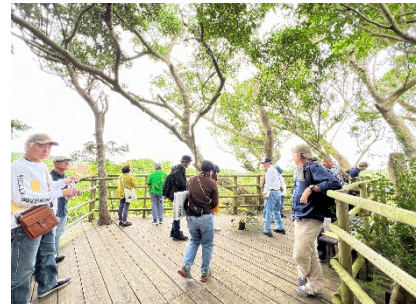


推定樹齢 150 年の大主
ガジュマル

(オ) ツリーテラス

木製の展望台からは、約 1 km 先にある 1 万 8000 年前の古代人「港川人」の人骨が発見された港川フィッシャー遺跡を望めることができる。

イキガ洞の川と谷間まで繋がっていることから、港川人がガンガラーの谷周辺に居住し、洞窟を利用していたらと予測され現在も研究が進められている。



従業員が手作りしたテラスは自然を
損なうことなく設置されている

(カ) 武芸洞

港川人が居住していた場所だと推測されている洞窟で、4000 年前の焚火跡と土器が発見された場所の周辺では、約 2500 年前の石棺と人骨が発見された。

人骨の保存状態がよく、腕に貝殻のブレスレットを付けた状態で発掘されている。2000 年～2200 年前の人骨や石棺をはじめ、約 7000 年前の爪型文土器など発見も相次いだことから、現在も学術調査が進められている。



2500 年前の石棺が発見された場所



ツアーガイドからまとめを聞いている様子

②南城 city 飯フェス(南城市佐敷)（南城市公共駐車場を活用したイベント）

【概 要】

2021 年 3 月に南城市役所公共駐車場が完成し、南城市が施設の運営管理を行っており、沖縄県の防災訓練場所になっている。

「イベントぶっちゃん」が南城市を元気にするため、2021 年 6 月から毎月最終日曜日にイベントを開催。これまで新型コロナの影響や悪天候で中止もあったが、イベントには約 30 店舗が出店し、多くの来場者で賑わっている。

南城市公共駐車場を会場に選んだのは、同駐車場の使用料を行政に支払うことで、生活困窮者を助ける財源になれば、という思いからである。そんな思いが起点にある

「飯フェス」は、美味しい料理だけでなく、市民が自らの手しごとを販売するなど、あたたかな空間に仕上がっている。

【区画位置】



【区画使用料】

	1 日	8 時間未満
A 区画	51,000 円	25,500 円
B 区画	39,000 円	19,500 円
C 区画	40,000 円	20,000 円
D 区画	28,000 円	14,000 円
E 区画	25,000 円	12,500 円
F 区画	8,000 円	4,000 円
全区画	191,000 円	95,500 円

出典：南城市 HP

【イベント開催のようす】

会場では、手作りの作品を販売している方やフリーマーケット、多数のキッチンカーが出店しており、鼓人の洞「ことのは」による和太鼓の演舞も行われていた。

【イベントを開催することになったきっかけ】

南城市は 2006 年 1 月に 4 市町村が合併して南城市となったが、まだ地域が活性化されていない現状があった。

その中で、2020 年には新型コロナウイルス感染症の拡大により南城市の税収が下がるとともに、戦後最大の生活困窮者が増加した。

公共駐車場や施設の使用料を民間企業や市民が南城市に支払う事で、税収が確実に入っていくため「少しでも南城市のためになれば」という思いから令和 3 年 6 月から毎月イベントを開催しており、市が潤うことが活性化の正しい方法と考えている。

屋外イベントを開催する上で難点となるのが、「雨や風」である。また、トイレや電気が使用できないと「場」を活用することが難しい。また、南城市公共駐車場では、電気や水道の使用が可能となっている。

(ア) 和太鼓（鼓人の洞-ことのは-）による演舞



和太鼓演舞の様子①



和太鼓演舞の様子②

(イ) キッチンカー・出展者等



キッチンカーでは食事やデザート
を購入することが可能



手づくりの雑貨を販売しているブース

主催者であるイベント会社「ぶっちゃん」の成塚氏より話を伺った。

㊦質問事項

Q 1. イベント会社「ぶっちゃん」は任意団体ですか。

⇒団体ではなくイベント業である。ボランティアで南城市を活性化させるために行っており、公共駐車場等をイベントで使用する事で、南城市の宣伝になると考えている。

Q 2. 会場にゴミ箱を設置していないが、ゴミは持ち帰りですか。

⇒各出展者側で用意している。お客さんがゴミ処理について聞いてきたら、買ったところに持って行くように説明している。ゴミ箱を設置して、もし何か危険物でも入れられたら設置した側の責任になるため、会場にはゴミ箱を設置していない。

Q 3. 1 回当たりの来場者数の最大と平均人数がわかればご教示ください。

⇒来場者は毎月千人から最大 1 万人である。2004 年 6 月に開催した一周年祭の来場者が 1 万人だった。

⇒1 万人を呼び込んだ時の周知方法についてお聞きしたい。

⇒今は SNS の時代なので、Instagram や Facebook での周知と、南城市の観光協会 HP でも案内を行っている。

Q 4. 今日のイベントには和太鼓（鼓人の洞-ことのは-）が出演していますが、出演は依頼したのでしょうか。

⇒今回は依頼したが、「出演したい」と相手から依頼を受ける場合もある。イベントでは教室案内のチラシも配布できるため、出演料がなくても生徒を勧誘できるメリットはあると考える。

2023 年 9 月に「お仕事体験車」として、自衛隊と消防車に乗れるイベントを開催した。普段乗ることができない車両に乗車でき、子どもたちに人気があった。

沖縄のデメリットの 1 つといえばテーマパークがないこと。目先を変えたイベントを開催すると人は喜ぶと考える。

Q 5. 11 月は涼しい気候だが、真夏の暑い時もイベントを開催していますか。

⇒今年の 6 月は周年祭、7 月には日中は暑いので午後 4 時から 10 時までナイト飯フェスを開催した。夜は街灯や、キッチンカーの電気がついて周辺がライトアップされ雰囲気がとても良く、ライブもあり多くの人で賑わった。

Q 6. 電気設備は会場に設置されていますか。

⇒街灯に電源コードが設置されていて使用が可能となっている。避難所にもなっているためトイレもある。

⇒那覇新都心公園内には食料の備蓄倉庫があるが、公共駐車場内にもあるのか。

⇒公共駐車場内ではなく南城市役所内にある。公共駐車場は避難場所にもなっているため、県道 137 号沿いのマンホールはテントを張って簡易トイレとして使用でき、またドクターヘリが停まることも可能である。

4) 勉強会

ガンガラーの谷の概要について、株式会社南都の高橋巧事業所長より説明を受けたあと、質疑応答を行った。

日 時	令和5年 11 月 26 日（日） 12：30～13：00
会 場	ガンガラーの谷敷地内 東屋



勉強会の様子①



勉強会の様子②

Q 1. 自然を保全し活用するに至るまでの経緯についてご教示ください。

⇒株式会社南都とガンガラーの谷との関わりは約 50 年前になる。当時の県民は、アメリカ統治下から日本社会へと移り変わることに不安を抱いていた。沖縄が優位性を発揮することがないか試行錯誤をする中、「沖縄にしかない自然、歴史、文化とその価値を伝えよう」とこの場所に眠る様々な価値に着目した。

歩道、階段、手すりなどを整備し、昭和 47 年 4 月復帰直前に玉泉洞（現おきなわワールド）とガンガラーの谷を観光地として公開したが、数年後、谷内を流れる河川へ上流から畜舎排水が流れ込み、環境悪化からガンガラーの谷の公開は中止されることとなった。しかし、この場所の価値を伝えるという創業当初からの思いを果たすため、河川環境の回復を待ち続け 2008 年に再び公開することができた。

Q 2. 歴史的価値のある文化財の管理・運営の手法についてご教示ください。

⇒通常の観光スポットと違いガイドと一緒に歩くガイドツアー専用にしたこと。私たちの仕事は、「守るために伝える」ことだと考えている。伝える時は、人の心が動く「楽しい」、「嬉しい」、「すごい」をどう感じてもらうか。ただ、ガイドを行うのではなく、聞いた人の心に響く演出を考えている。

Q 3. 洞窟をカフェやイベントに活用することで留意することがあればご教示ください。

⇒11/18（土）と 11/19（日）にケイブカフェで、デーモン閣下とアコーディオン奏者の COBA さんとのイベントがあった。注意点としては、鍾乳洞なので人の安全確保が大事。専門家と確認しながら毎年、鍾乳洞の点検を行っている。
大太鼓の音が響くエイサーや、クラブのような音楽イベントは禁止している。また、ケイブカフェでは、基本的に洞窟の中の環境は変えたくないため、飲み物以外は提

供していない。

フランスのラスコー洞窟には、壁に2万年前の絵が描いてある場所があるが、一般公開するために洞窟に空調を入れたら、すぐに絵がボロボロになったという。なるべく古代からの環境を変えないことが大事で、湿気や風通しもある程度あった方がよい。

Q 4. ガンガラーの谷の土地や資源は、企業の所有でしょうか。それとも行政の所有でしょうか。

⇒会社が所有している土地と借地がある。借地も含め 50 数年前に弊社が一社管理をした。借地に建築するとなると地主に相談するが、それ以外の調整については難しい。我々は民間企業なので、意思決定から実行までが早いかもしれない。そこが、民間と行政の違いである。

Q 5. 30 年前に一度オープンしたが、畜舎排水問題で閉鎖して 2008 年に再開しています。閉鎖後の農業関係者との調整の経過や、苦労したことがあればご教示ください。

⇒50 数年前はまだ琉球政府時代で、日本に復帰して畜舎がどんどん建ち、畜舎排水について厳しい法律がなかったと聞いている。

その後、法律が変わり汚水を流したら法律違反となった。各畜舎の方々に浄化槽を作り上澄みの綺麗な水のみを流すようになったが、こっそり汚水を流す方もいたため公開まで 20 年くらい時間がかかった。農業関係者と争うわけにもいかないので、見つけた時はその都度話をさせてもらった。畜舎の経営者が高齢のため廃業が続いたこともあり、現在は汚水の排水は減りほぼない。

5) アンケート結果

問1. お客様ご自身についてお尋ねします。

(1) 性 別

選択肢	回答数 (件)
1. 男性	12
2. 女性	2
計	14

(2) 年 齢

選択肢	回答数 (件)
1. 20 代以下	0
2. 30 代	0
3. 40 代	2
4. 50 代	3
5. 60 代以上	9
計	14

問2. 本日の県内バスツアーについてお尋ねします。

(1) 参加理由

選択肢	回答数 (件)
1. 若手の会の活動に興味があった	0
2. バスツアー（視察先）に興味があった	9
3. 地権者意見交換会で誘われた	3
4. その他	2
計	14

(2) 満足度

選択肢	回答数 (件)
1. 大変満足	11
2. やや満足	1
3. やや不満	0
4. 不満	0
5. 無回答	2
計	14

問3. 若手の会についてお尋ねします。

(1) 若手の会の取組み内容の説明はわかりましたか。

選択肢	回答数 (件)
1. 分かった	14
2. 分かりづらい	0
計	14

(2) 本日のバスツアーは、若手の会の検討テーマと合っていると思いませんか。

選択肢	回答数 (件)
1. はい	12
2. いいえ	0
3. 無回答	2
計	14

(3) (2) で回答した理由についてお聞かせください。

- 賑わいの創出をテーマに主催者側へ話を聞くことができた。
- 色々な地域の取組みを視察することは知識を深めることに役立つ。
- 地域資源の活用や、作り方、育て方を具体的に実践しているところを見ることができ、参考になった。
- 立地に関わらず創意工夫によって賑わいのある場所に出来る事を学べた。
- 行きのバスの中での大川会長の若手の会への入会の経緯やまた先輩方からのアドバイスや意見を取り入れながらのこれまでの歴史についての話を聞かせてもらい、若手の会の歩みをわかりやすく理解することができた。
- まちづくりに欠かせないヒントがあり、今後の会活動、そして返還後の基礎に役立てられると思った。
- 賑わいの創出（南城 city 飯フェス）及び、地域資源の活用及び保護（ガンガラーの谷）が大いに参考になった。
- 観光施設や鍾乳洞を活かしたまちづくりができるのではないかな。

(4) 次回以降のイベントで取り上げてほしいテーマがあればお聞かせください。

- 北部方面に、普天間跡地の参考になる場所があれば行ってみたい。
- 普天間飛行場内からフェンス外の宜野湾市を見ることができれば、別の角度・視点で何かを得られるのではないかな。
- 県内各市町村で特に緑（水も含む）を、町おこしに活用している所があれば本日の様に2か所程（距離的に可能なら）取り上げてもらいたい。
- 那覇新都心や、ハンビー自治会の発足や取組等。

【自由記入（イベントのご感想やご意見）】

- 新しいまちづくりにあたって、できる限り独自の自然・歴史・文化の価値を生かし、できるだけ環境に負荷をかけないまちづくりにしてほしい。沖縄は車社会でもあり、公共交通機関の利便性や駐車場の確保、交通渋滞の問題についても考えていかなければと思わされた。
- ガンガラーの谷では、極力自然に手を加えず、ガイドとセットにする事で入場者数を抑え、尚且、客単価を上げることに成功しており感心した。宜野湾市には観光資源が少ないと思っていたが案外身近にあるかもしれない。
- ガンガラーの谷は、民間の運営で調査研究保全の取り組みが行われていることを知りました。通路、階段の樹木について手を加えたりかけたりしないところにも意外性を感じた。
- 森に近い極地で鳥や蝶、蜘蛛など耳や目に入って数万年前の岩を見ながら生命という歴史、ロマンを感じた。
- 沖縄という地に今後、どのような緑を育て作って（創って）ゆくか考えることが楽しみになりました。本日の企画ありがとうございます。

6) 取り組み成果と今後の課題

【取り組み成果】

●地域資源や公共施設を活用したまちづくりに関する知見の習得

- ・ ガンガラーの谷では、通常の観光スポットと違い「ガイドと一緒に歩くガイドツアー専用」とすることで、ここにしかない歴史と自然を感じることができた。
自然・歴史・文化の価値を活かした、地域資源を活用したまちづくりに関する知見の習得を図ることができた。
- ・ 公共駐車場や施設を、民間企業や市民が活用していくことで人が集まる賑わいが創出され、まちの活性化に繋がる。
公共施設を活用したまちづくりに関する知見の習得を図ることができた。

【今後の課題】

●周知及び参加者の取込みについて

- ・ 地権者意見交換会で告知を行い、若手の会 8 名、普天間飛行場の地権者 7 名の参加があった。より多くの方に参加していただけるよう周知方法について工夫する必要がある。

(3) 地権者意見交換会の企画・開催

1) 開催概要

普天間飛行場の地権者に対し、今年度の若手の会の活動や普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組み内容等について情報発信及び意見交換を行い、普天間飛行場跡地利用への関心を高めることとあわせ、若手の会定例会活動への参加と会の加入促進を目的として、地権者意見交換会を企画・開催した。

2) 地主会役員等との意見交換会の実施概要

- 開催日：令和5年9月27日（水）15時00分～16時00分
- 内 容：（1）普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組状況等について
（2）普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告
（3）質疑応答、意見交換

3) 主な意見（地主会役員等との意見交換会）

- ・地権者意見交換会の中でワークショップを毎回開催しているが、去年に限っては、新しい人たちが参加されていた。跡地利用について分からないという人が多かった。しかしそうやって、分からない人に周知を図っていき、興味ある人を増やしていくことが大事である。継続していくことが大きな力になる。若手の会で説明会をしてきているのはありがたいことである。若手の会も地権者の立場で発言している。今の学生が、将来普天間飛行場がどうなっていくか考えさせる活動が一番大事と考えている。地権者と行政が顔をつきあわせて、言いたいことを言える、そういう雰囲気をつくっていくことが大事。沖縄には多数あるが、大事なものは失敗したまちづくりについても、ぜひ見せてほしい。行政任せではだめであるということを知ってもらいたい。

4) 実施概要（地権者意見交換会）

- 開催日：令和5年11月4日（土）午後、7日（火）午後、10日（金）午後
- 内 容：（1）普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた取組み状況
（2）普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告
 - 1）若手の会の活動紹介
 - 2）本日の「意見交換テーマ」における若手の会の検討内容
【意見交換テーマ】（開催日により異なる）
 - ・経済効果を上げる土地利用
 - ・道路交通等のまちづくり
 - ・みどりの中のまちづくり
- （3）小グループに分かれての意見交換、グループ発表

表：「地権者意見交換会」の開催日時、会場、参加者数

回数	開催日時	テーマ	会場	参加者数
第1回	11月4日(土) 14:00～ 16:00	経済効果をあげる 土地利用	宜野湾市役所多目的 会議室 A・B	16名 (8名)
第2回	11月7日(火) 14:00～ 16:00	道路交通等のまちづくり	JA おきなわ宜野湾 支店会館2F 会議室	18名 (6名)
第3回	11月10日 (金) 14:00～ 16:00	みどりの中のまちづくり	JA おきなわ宜野湾 支店会館2F 会議室	10名 (7名)
合計				44名 (21名)
平均				14.7名 (7名)

※（参加者数について）上段：参加者総数 下段：参加者総数の内、若手の会からの参加者



写真：地権者意見交換会の様子①



写真：地権者意見交換会の様子②

5) 主な意見と回答

①第1回目

テーマ「経済効果を上げる土地利用」

跡地利用のまちづくり

- ・ 経済効果を上げるためには、魅力的なまちになる取組が必要。面白いまち、若者を引き込むまち、多様な施設があたり一面に配置され、にぎやかで楽しいまちになると良い。
- ・ IT 特区を設け、IT 企業を誘致し雇用の場の創出につなげてはどうか。
- ・ システムを開発し、高齢者も住みやすい便利な仕組みをつくりたい。
- ・ 子どもや孫たちの将来的な活用を想像して跡地利用を考える必要がある。

交通

- ・ 多くの人を呼ぶには駐車場が必要である。駅を中心にコミュニティバスを走らせれば便利になる。空港から直接アクセスできるようにしてほしい。
- ・ フィーダー交通を整備し、公共交通が利用しやすく整備されるとよい。
- ・ 物流道路は必要、利用しやすい公共交通として路面電車が有効だと思う。

住宅

- ・ 高級住宅街にするには教育の充実やセキュリティ面で安全安心なまちづくりが必要である。高校や総合病院の誘致も必要ではないか。
- ・ 住宅とスーパーは近い(200m～500m以内)ことが理想である。

緑のあり方

- ・ 経済活動の活性化に、緑と開発のマッチングが課題で、バランスに配慮することも考えるべき。
- ・ 皆が利用できる、防災拠点にもなる広場を整備し、持続的なイベントを開催してはどうか。
- ・ 花、虫や鳥の声、豊かな自然の中で、憩い、やすらぎ、くつろぎ、癒やしを体感できる広場として位置づけたい。
- ・ イベント開催可能な大規模公園を整備する。

文化・歴史・自然

- ・ 文化を感じる跡地利用をしたい。基地の中に残るカー(湧水)などの豊かな自然や墓も一つの資源として考えてはどうか。
- ・ 昔、綱引きが始まる前にテービー(松明)で氣勢を上げていた。地域の風習を引き継ぐためにも再開したい。
- ・ 基地の中の墓地は沖縄の歴史を伝える意味で亀甲墓を集約できたらいい。
- ・ 負の遺産をプラスに変えるという意味で、滑走路を残して観光や未来に向け、平和づくりに利用することを考えてもいいのではないかと。沖縄は日本で唯一地上戦が行われた場所である、平和を軸に跡地利用を進めてもらいたい。

その他

- ・住宅や商業地域では減歩率が変わるという話が出た。
- ・個別対応の窓口を設置してほしい。

②第2回目

テーマ「道路交通等のまちづくり」

交通

- ・市内を周遊するコミュニティバスがあれば地域間の交流促進と自家用車の抑制につながる。その際はバス停の位置を慎重に検討する必要がある。
- ・鉄軌道だけではなくモノレールの延伸も検討できないか。
- ・ライドシェアの活用や自転車の利用促進も考えてはどうか。
- ・公共交通の利用が少なく、周辺の道路システムが分かりづらい。バスのルートが不便で乗り継ぎしないといけないという課題がある。
- ・駅から自宅までのフィーダー交通整備をしてほしい。
- ・どの地域の人も利用しやすい交通システムを整備して、市が一体化するようなまちづくりを考えてほしい。中城村のコミュニティバスも参考になる。
- ・鉄軌道が整備されないと跡地利用計画は進まないなので骨太の方針を持って国に当たってほしい。
- ・基地があるのも軽便鉄道がなくなったのも国策、戦争の結果であり、国が責任を持って跡地利用に関わり事業費を出してほしい。
- ・基幹交通だけではなく支線も整備し、高齢者などが日常の足として使えるような域内交通を充実させる必要がある。
- ・エリアを周遊するコミュニティバスが必要。10分、15分ぐらい待てば乗れるような利便性の高いものが必要。

その他

- ・自分の土地がどこにあるか気になっていたが、市役所のパソコンで確認できて安心した。
- ・普天間飛行場跡地の地下水にPFASが検出されないか気になる。
- ・2回目の参加でとても勉強になった。一市民として住みよいまちづくりに貢献していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症以降は生活様式が変わり、物流は増えるが人流は減るかもしれない。集客するための仕組みが必要である。今後、沖縄県の人口の増減も考えなくてはならない。今後とも意見交換してみんなで考えていきたい。

③第3回目

テーマ「みどりの中のまちづくり」

公園
・100ha は大き過ぎて規模がイメージしにくい。住民説明には、平面ではなく写真や三次元を使用すると分かりやすい。 ・他の都市公園の成功事例を紹介すると理解しやすく合意形成につながる。 ・並松街道を歴史的価値のある公園として国営で整備してほしい。 ・大規模公園の実現に向けて、国営を強調せずに、住民や地主が納得できる形をみんなで相談して進めていきたい。 ・地域にインパクトを与えるまちづくりをして、地域のメリットになるとよい。 ・緑の定義は、樹木・芝生・公園だけではなく、畑を加えてもよいと思う。 ・地形の起伏をそのまま利用し、森の中に建物があるイメージ。 ・施設と公園は一体化し、木陰をつくり、ウォークラブルなまちづくりをしたい。 ・単に大規模な公園をつくるのではなく、公園に機能性をもたせ、将来的に発展するまちづくりにつながるとよい。 ・隣の敷地との交流を促すため囲いは作らずにオープンにするとよい。 ・公園へのアクセスを良くし、歩車道分離など、子育て世代を呼び込める環境づくりが必要。

その他
・LED や光害、除草剤の使用について、環境に配慮するよう意見交換していきたい。 ・新しいまちには若い人を呼びたい。 ・都市機能はコンパクトにして、一つの建物に、病院・老人ホーム・行政サービスを複合させて、住民サービスの向上を図りたい。 ・振興コアに対して、地域住民のかかわり方が分からないという声がある。今後の課題として話したい。

6) アンケートと調査結果

問1.本日の内容について

(1) プロモーションビデオの内容

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1.理解できた	6	46.2
2.まあまあ理解できた	7	53.8
3.少し難しかった	0	0.0
4.難しすぎた	0	0.0
5.その他	0	0.0
無回答	0	0.0
計	13	100.0

(2) 普天間飛行場跡地利用計画の最近の主な取組状況

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1.理解できた	6	46.2
2.まあまあ理解できた	7	53.8
3.少し難しかった	0	0.0
4.難しすぎた	0	0.0
5.その他	0	0.0
無回答	0	0.0
計	13	100.0

内容について「理解できた」、「まあまあ理解できた」と回答した割合がアンケート回答者のすべてとなっていることから、これまでの跡地利用に関する県市の取組みや考え方・方針について概ね理解されていると考えられる。

問 2.意見交換テーマにおける若手の会の検討内容について

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1.理解できた	5	38.5
2.まあまあ理解できた	7	53.8
3.少し難しかった	0	0.0
4.難しすぎた	0	0.0
5.その他	0	0.0
無回答	1	7.7
計	13	100.0

問 3.地権者意見交換会の時間について

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1.長かった	2	15.4
2.ふつう	9	69.2
3.短かった	2	15.4
無回答	0	0.0
計	13	100.0

時間が「短かった」という回答が2件あった。今年度は全体で最長90分の時間を設けた意見交換会であったが、まだ話し足りないという参加者の意向が読み取れる。

問 4.今後の意見交換会や情報誌ふるさと、ホームページを通じて知らせてほしい情報はありますか。(複数回答)

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1.跡地利用計画の検討について	4	30.8
2.地権者・市民に対する跡地のまちづくりへの関心向上に向けた取組み	2	15.4
3.土地活用の手法について	6	46.2
4.基地内の自然環境、文化財等の情報	2	15.4
5.その他	1	7.7
無回答	2	15.4
計	17	—

問 5.普天間飛行場跡地利用に関する最新情報は、年2回発行される「ふるさと」で発信されています(郵送)が、掲載されている情報は、理解できる内容ですか。

選択肢	回答数 (件)	構成比 (%)
1.理解できた	8	61.5
2.どちらとも言えない	1	7.7
3.難しすぎた	1	7.7
4.みたことがない・知らない	0	0.0
5.その他	0	0.0
無回答	3	23.1
計	13	—

【自由意見】

- ・総会や臨時の説明会の中で、土地の先行取得や減歩率の考え方について検討できれば計画がスムーズに進むと思う。
- ・跡地の平坦な地形が、今後の雨でどのような影響が考えられるか、研究や考察が必要ではなかろうか。
- ・いつ返還されるのか遠い将来と考える。人間の生活にとって最も大切なもの変わらないモノは何かを見つけることが大切だと思う。
- ・専門用語が多く一般市民には理解しにくい。
- ・基地要塞化にならないうちに返還が実現するように願いたい。

7) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●参加者数の傾向と周知方法について

- ・若手の会からの参加者数は増加し積極性の向上がうかがえたが、地権者の参加者数は減少した。
- ・地権者支援情報誌「ふるさと」と案内文書で周知をおこなった。多くの方がご覧になり、来場したくなる誌面等の工夫が必要となる。

●説明会の運営について

- ・説明方法について、配布資料と説明内容に相違が感じられたことから、地権者の誤解を招く懸念が生じることから、地権者にも伝わりやすい進め方や表現の工夫が必要となる。
- ・意見交換の進行について、参加者の意見の引き出しやテーマに沿うことが難しいグループが見られたため、進行役を複数人割り当て、テーマの認識の共有化を定例会などで図る必要がある。

【今後の課題】

●地権者の参加数を増やす工夫について

- ・開催日について五十日（繁忙日）などに配慮することと、周知方法について、多くの地権者の目にふれるよう封筒のデザインや口コミ等の工夫を図る必要がある。
- ・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

●地権者の知識習得及び意見収集を促す説明会のスムーズな運営について

- ・若手の会の取組み紹介については、経験豊富な会員のみではなく、多くの会員の方が若手の会をアピールできるよう説明者のすそ野を広げるため、これまでに説明されていない方を中心に毎回担当者を変えておこなうことも事前の役割分担等で議論する必要がある。

(4) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発送

1) 取組み概要

跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」を作成し、発行した。

内容に関しては、今年度実施した地権者意見交換会やはごろも祭りでのパネル展開催などに加え、次年度に開催を企画している取組みに関する事前案内もあわせて行った。

2) 情報発信の内容

回 数	発送時期	主な掲載内容
第 57 号	令和 5 年 10 月	○告知事項 ・ 地権者意見交換会開催のお知らせ ・ 県内視察会のお知らせ ・ はごろも祭りにおけるまちづくりパネル展開催のお知らせ ○報告事項 ・ 若手の会の活動内容
第 58 号	令和 6 年 3 月	○告知事項 ・ 地権者を対象としたまちづくり勉強会開催案内 ○報告事項 ・ 地権者意見交換会の概要報告 ・ 先進地視察会における先進地事例紹介 ・ 若手の会と地権者による県内視察会概要報告

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●跡地利用等に関する情報発信について

- ・ 全地権者に対して、若手の会の取組みや跡地利用に関する合意形成活動の情報を発信する事ができた。
- ・ 次年度に企画・検討している「地権者を対象としたまちづくり勉強会」の案内を事前に掲載することで、次年度当初からの地権者の積極的な参加につながるよう工夫を行った。

【今後の課題】

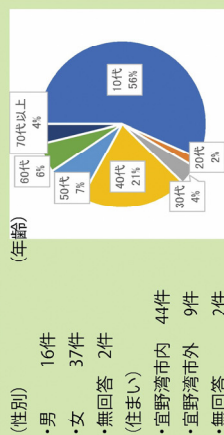
●見やすさ及び分かりやすさの工夫について

- ・ 誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。
- ・ 誌面だけでは伝わりづらい内容については、動画を撮影してリンク先を記載するなど、誌面で伝える部分と動画で伝える部分を仕分けすることで、より効果的な情報誌になるよう継続する必要がある。

出展内容をより充実させ、今後も継続してパネル展を開催していきたいと考えています。

パネル展アンケート結果

Q1. 性別、年齢、住まいを教えてください。



Q2. 今回のパネル展で普天間飛行場返還後のまじづくに興味を持てましたか。

- 興味を持た 55件
興味を持たない 0件
- Q3.** 本ブースでどのような点に興味をもちましたか。 51件
パネルを通してさまざまな取組みが知れたこと
プロモーションビデオで
地域利用計画の全体像を知れたこと 11件
地域利用計画をクイズ形式で楽しめたこと 7件
- Q4.** 若手の会では、今年度の検討テーマを「賑わいを
創出する空間」として検討を進めています。
あなたの考える「賑わいに欠かせないもの」のイメー
ジを教えてください。
- 高齢者も楽しめる植物園・展望台（高さを生かす）
公園・水族館・テーマパーク・スポーツ施設
・サークリット 巨大高蔵ジョッキングモール・鉄道
博物館

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報は共窓口（宜野湾市基地政策部まで未来課）でも提供しております。

情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご利用ください。



【土地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】
宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-893-4402

地權者 援 支 情報誌

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に関する最新情報をお伝えします。

地権者意見交換会を開催します！

普天間飛行場跡地利用に関する地権者の皆さまのご意見を伺い、跡地利用計画に反映させることを目的に、今年も地権者意見交換会を下記日程で開催します。

今年は、過去に実施したテーマから、特にご好評いただいた3つのテーマを選定し、開催日ごとにテーマを分けて実施します。あわせて、最新の取り組み状況についてもご報告申し上げます。

多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

開 催 日	意見交換テーマ	時 間	会 場
11/4(土)	経済効果をあげる土地利用	14:00～15:30	宜野湾市役所多目的会議室A・B (市役所正面玄関前)
11/7(火)	道路交通等のまちづくり	14:00～15:30	J A おきなわ 宜野湾支店会館 2階会議室
11/10(金)	みどりの中のまちづくり	14:00～15:30	J A おきなわ 宜野湾支店会館 2階会議室

【意見交換会の内容】意見交換会当日は、1～3の流れですめています。

1. 普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた取り組み状況



プロモーションビデオの放映と合わせて最新の取り組み状況を説明します。

2. 若手の会からの報告



会の活動とこれまでの検討内容を
分がりやすく説明します。

3. 意見交換



テーブルに分かれて意見交換を行います。

皆せまと若手の会メンバーの県内バスツアーご案内

11月26日(日)に、「人が集まるにぎわいある場」をテーマとして県内バスツアーを行います。

詳細は地権者意見交換会で詳しくお知らせし、参加募集を行います。
多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



普天間飛行場の跡地を考える **若手の会** の活動内容

若手の会とは？

- ・普天間飛行場跡地利用に向けた地主側の組織として、普天間飛行場返還後のまちづくりをけん引する人材の育成と若い世代の意向把握を目的として平成14年に発足しました。
- ・跡地利用について地権者の立場で検討し、意見を発信する場として活動しています。

令和4年度の活動内容

- ・「周辺市街地との連携」をテーマに設定し、定例会の中で検討を進めました。
- ・まず、周辺のまちと連携・連続性を構築するにあたって必要となる要素について議論し、今から地権者としてどのようなこと・取組ができるのかを取りまとめました。
- ・「今から地権者としての取り組みること」については、道路の整備といったハード面よりもソフト面の意見が多かったことから、その結果を踏まえて今年のフィールドワーク実施に繋がっています。

※誌面の都合上、一部のみ掲載しています。全てをご覧になりたい方は、右のQRコードを読み取っていただくことで確認することができます。



「周辺市街地との連携」に関する若手の会の考え

周辺市街地との連携の要素	今から考えられること	今から取組めること	他の計画との整合	計画内容の具体化との関連性
緑の中のまち ▶ 普天間飛行場跡地周辺にある多くの公園と普天間飛行場跡地から創出されるみどりには連続性を持ち、緑のネットワークを作りたい。 ▶ サイクリングロードや遊歩道など、大規模公園とのつながりがあればよい。(地権者) ▶ 普天間飛行場跡地の土地利用と連続性をなしたい。	▶ サイクリングロードや木陰のある遊歩道を整備 (ハード面) ▶ サイクリングロードや木陰のある遊歩道を利用し、周辺のまちとつながるような工夫や安全なルールづくりの活用できる取組 (ソフト面) ▶ 公園が持つ持っている価値や空間に面して、接しているエリアの持つ価値や空間が、どう地域に開かれていくのか考えるべき。(立飛) (ソフト面) ▶ 周辺市街地の規模感を把握し、周辺市街地の土地利用の受け皿としての程度活用できそうか、現状の土地利用状況を把握する。	▶ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ▶ 【共通事項】現状の利用状況の把握と活用できる用地などを探索する地域のまちあそびるきを行う。 	● みどりの拠点として自然環境を維持・保全 ● 街路樹や沿道宅地等のみどりで構成する「みどりの回廊」の確保	● 跡地と周辺市街地にまたがる生活圏の形成 ● 周辺市街地の再編 ● 跡地と周辺市街地の境界部分における各種規制・誘導手法の検討 ● 周辺市街地における環境づくり ● 周辺市街地の新たなネットワークを形成する地区等の検討や空間づくりに向けた手法、実証性に関する検討
コミュニティ形成 ▶ 旧宇留の住民コミュニティを普天間飛行場跡地のまちも含めて継続していきたい。	▶ 共に同じ活動 (イベント) を通じて共通のビジョンを醸成させていくことが必要 (立飛) (ソフト面) ▶ 地域内外のバランスのよい情報発信の仕方 (課題) (UDCK) (ソフト面)	▶ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ▶ 現状の利用状況の把握と活用できる用地などを探索する地域のまちあそびるきを行う。 ▶ 公共空地を活用したにぎわい創出に向けたイベントの実証実験を行う。	● 公共空地の活用 ● 公共空地の活用	● 公共空地の活用 ● 公共空地の活用
訪れたくなる拠点形成 ▶ 近隣市町村や市内の各種資源 (中城跡、普天満宮など) との連携 ▶ 交通結節点 (インダストリアルコリドー地区) との連携	▶ ただ散歩のために訪れるなど利用する場所があることで、周辺のまちの来訪者も増え、地元愛につながる。(立飛) (ソフト面) ▶ ヒルズ通り、いすのき通りと跡地中央エリアの商業地と連携し、人の流れを生み出すこと (ソフト面) ▶ 周辺市街地における現状の人の流れや車の流れを把握 (ソフト面)	▶ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ▶ 公共空地を活用したにぎわい創出に向けたイベントの実証実験を行う。 ▶ バス乗車体験、バスを降りたくなる空間のイベント探しを行う。	● 広域的な交通施策の動向を踏まえながら、交通結節点としての機能導入 ● 誰にとっても居心地がよく歩きやすい環境を整備、まちあそびるきを回遊できる市街地環境の整備・改善 ● 来訪者の利便性向上を図るため、新たな駐車場システムの構築や駐車場の整備	● 中南部都市圏の動向を踏まえた周辺市街地との効果的な役割分担 ● 集客圏等を意識した適切な機能導入の連携
道路交通ネットワーク ▶ 周辺のまちの道路ネットワークに繋がるような、跡地内の道路整備がなされるとよい。(地権者) ▶ 既存の道路ネットワークと普天間飛行場跡地内道路ネットワークへスムーズなつながりがあるように。	▶ 新しい道路を整備しても渋滞が考えられるため、自転車道や公共交通を利用するシステムが必要 (地権者意見交換会) (ハード・ソフト面)	▶ 【共通事項】23の自治会とのネットワーク、ワークショップなどを通して、意見を聞いていく。 ▶ 【共通事項】新たな公共交通の在り方を考える上で、バス乗車体験で何が課題かを体感する。	● 基幹バスシステムとの連携等による公共交通の利便性向上 ● 周辺市街地における歩道の選定 ● 周辺市街地における供給施設等の整備 ● 周辺市街地における都市基盤技術等の展開	● 周辺市街地における幹線道路の整備 ● 周辺市街地整備から見た道路構造・ルートの選定 ● 周辺市街地における供給施設等の整備 ● 周辺市街地における都市基盤技術等の展開

周辺のまちとの連続性・一体性

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.57(中面)



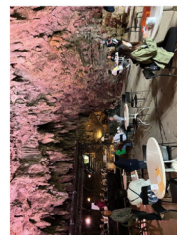
県内視察会を実施しました。

今年度、若手の会では「にぎわいの創出」をテーマに検討を行いました。そこで、去った11月に若手の会9名、地権者7名の16名で県内にある「人が集まり、にぎわいがある場」の参考事例として「ガンガラーの谷」と「南城city飯フェス」の県内視察を行いました。

ガンガラーの谷（南城市）

観光客や県民にも人気があるガンガラーの谷では、自然を保全し、鍾乳洞を観光資源として活用しています。

「ガイドと一緒に歩くガイドツアー専用」とし、前後の時間差を設け、他のツアーと遭遇しないようにすることで、貸し切りのような静かな雰囲気のまま歩くことができま



洞窟を活用したカフェ



武蔵洞では約2万年前の海川人の石棺が発見された



勉強会のような様子

南城city飯フェス（南城市）

南城市役所の隣りにある公共駐車場を活用し、南城市の活性化を目的として毎月最終日曜日にイベントを開催しています。

公共駐車場は、沖縄県の防災訓練場所になっており、災害時の避難場所などに活用することが可能となっています。



イベントの様子①



イベントの様子②

【参加者の感想】

- ガンガラーの谷では、極力自然に手を加えず、ガイドとセットしており感銘を受けた。
- 抑え、尚且、客単価を上げることに成功しており感銘を受けた。
- 宜野湾市には、観光資源が少なくないと思っていたが案外身近にあるかもしれない。
- 立地に関わらず、創意工夫によって賑わいのある場所になるということを学べた。
- ガンガラーの谷は、民間の運営で調査研究保全の取組みが行われていることを知り、また、通路、階段の樹木について手を加えていないところにも意外性を感じた。

普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて

先進地視察会を実施しました。



若手の会等と、まちづくりの先進情報の収集・蓄積、跡地利用に関する議論の深化を目的に、去った10月に県外先進地視察会を実施しました。

ここでは、賑わいと交流を育むウォーカーカブルなまちづくりの取組を進めている事例についてご紹介します。

【花園町通りの再整備】愛媛県松山市

安全に歩いて、健康で、生き生きと暮らせる、そして「賑わい」を生み出す空間の創出を目的に花園町通りの再整備を行いました。

ネットワーク形成に重要な、「歩いて暮らせるまち松山」のシンボルロードです。



勉強会のような様子

◆道路の総幅員はそのまま、片側3車線あった道路を片側1車線に減らし、歩行空間を拡大。

◆整備前（H20）と整備後（H29）を比べて、歩行者の交通量は約2倍に増加した。

※2,955人→5,512人（人/12時間）

◆広くなった歩道では、毎月第3日曜日に、地元商店街が主催するマルシェイベントが開催され、観光客や家族連れなど多くの人で賑わっている。

【国道190号線 常盤通りの社会実験】山口県宇部市



旧道には、子どもたちが遊べるトランポリンと休憩スペースを配置

「居心地がよく歩きたくなる」まちなかの形成を目指し、常盤通りのウォーカーカブル化に取り組んでいます。

常盤通りの一部の歩道、副道、植樹帯を一体的に、様々な用途に活用できる滞在空間（公園的歩行空間）として整備し、令和8年度の整備完了を目指し進めています。

◆滞在空間やアーバンポーツが楽しめる空間に加え、新たな取組として、「子どもが自由に遊べる空間」や「健康づくりができる空間」を創出した。

◆歩道内には学生手作りの飲食が可能な休憩スペースを設けることで、訪れた人々の滞在空間ができる。

【参加者の感想】

- 普天間飛行場周辺市街地にある空間地の新たな土地活用として今の宜野湾市市街地再生モデルとして参考になった。
- 返還後のまちづくりを待たず公・民・学が連携した地域の環境に特化したまちづくりについて、起業・創業等の再生のチャンスがあることを学び、今後の活動に活かしたい。